

2027年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職戦線は山場を迎えた。内定率をはじめ、6月1日現在のキャリアタス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。過去の6月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。また、今回は内定取得後のフォローによる入社意欲の変化などについても紹介する。

1. 6月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は81.2%。前年同期実績(83.7%)を下回るものの、依然高水準
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の47.2%。2年前に比べ9.2ポイント減
- 継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて43.0%
文理差が大きく、文系は半数近くが継続(47.0%)。理系は約3割(32.2%)

2. 内定保持学生の就職先未決定理由

- 「本命の企業が他にあり、まだ選考中」が最多(35.5%)
- 次いで「内定企業が自分に合っているかわからない」、「複数内定で優劣つけがたい」の順

3. 内定を得た企業の業界

- 1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「建設・住宅・不動産」、3位「銀行」の順
- 「情報処理・ソフトウェア」は属性によらず上位。「銀行」は文系男女ともに2位

4. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は前年を上回る(平均11.8社→13.3社)。筆記試験、面接社数もそれぞれ増加

5. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業数は平均2.4社。これから受験予定の企業は1.8社
- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、企業の幅を広げていく」が最多
- 見直すことは「志望業界」が最多(39.4%)。「企業規模」が次点(22.0%)

6. 内定後のフォローによる志望度(入社意欲)の変化

- フォローを受けて「志望度が上がったことがある」41.3%。文系で高い
- 「志望度が下がったことがある」学生も少数ながらみられる

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象：2027年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数：1,013人(文系男子209人、文系女子481人、理系男子172人、理系女子151人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年6月1日~7日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリアタス/キャリアタスリサーチ

1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は81.2%。先月調査(5月1日76.0%)からの1カ月間で5.2ポイント上昇し、8割を超えた。今期は2月に4割を超え(46.6%)、3月の就活解禁のタイミングで5割に達するなど(51.7%)、内定獲得時期の早期化が一層進んだ。一方で、5月時点で前年の水準に並び、この6月は前年同期実績(83.7%)を2.5ポイント下回る。6月の数字を切り取れば、25年卒者の85.2%を頂点に2年連続で低下しているが、依然高水準を維持している。選考解禁を迎えたことで、内定率が今後どう変化していくのか注目される。

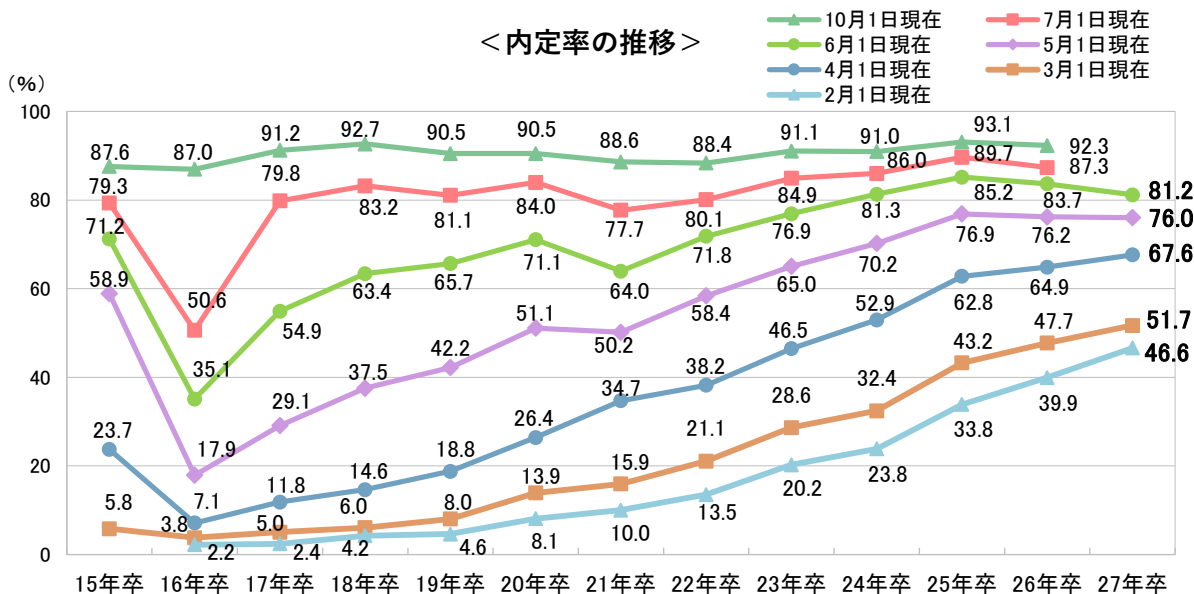
内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは58.2%。前年同期調査(63.0%)を下回っており、代わりに内定を保持しながら活動を継続する学生の割合が増えている(26.0%→29.8%)。

<6月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		81.2 (83.7)	79.9 (81.5)	79.0 (82.9)	85.5 (85.5)	86.8 (89.4)
内定なし		18.8 (16.3)	20.1 (18.5)	21.0 (17.1)	14.5 (14.5)	13.2 (10.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	58.2 (63.0)	52.7 (56.9)	52.9 (56.4)	72.1 (80.7)	71.8 (69.8)
	活動は終了したが複数内定保持	11.6 (10.0)	13.2 (11.4)	13.9 (12.0)	6.8 (6.1)	6.1 (7.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.9)	0.6 (0.0)	0.3 (0.8)	0.7 (0.5)	0.0 (4.8)
	就職活動継続	29.8 (26.0)	33.5 (31.7)	32.9 (30.8)	20.4 (12.7)	22.1 (18.3)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.4 (2.4)	2.5 (2.4)	2.4 (2.5)	2.1 (2.3)	2.1 (2.3)

※ () 内は前年(6月1日現在)の数値

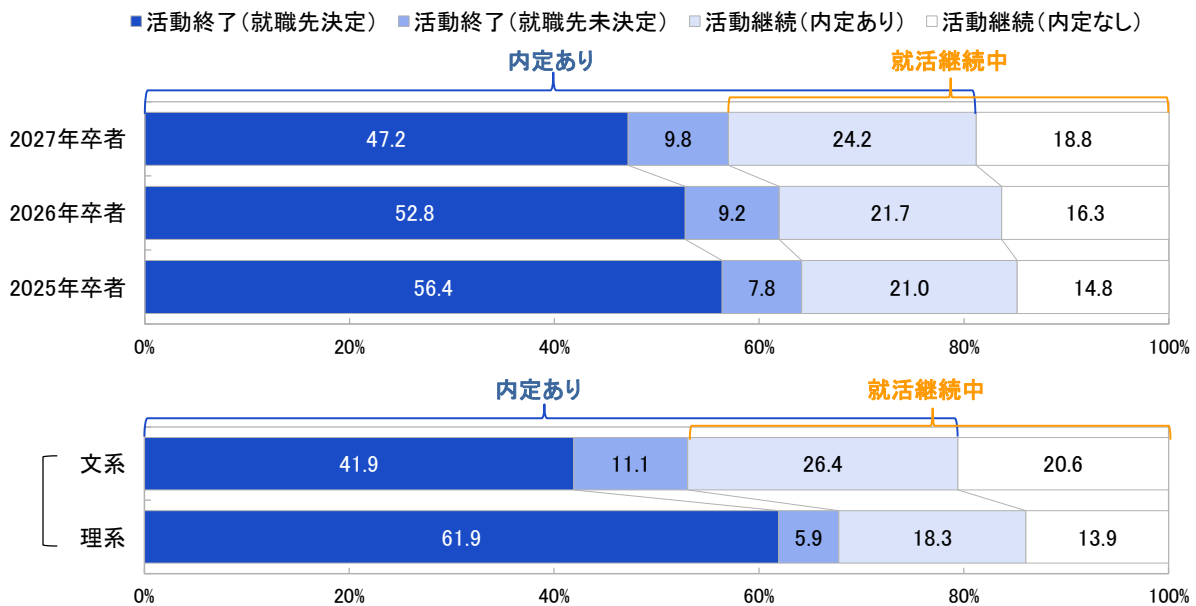


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~27卒は6月

回答者全員を分母に活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は47.2%。内定率自体が前年同期実績に届かなかったことに加え、内定を得たものの決めきれない学生の割合が増えたことで、決定者の割合は前年(52.8%)を下回った。2年前に比べ9.2ポイント減。

活動継続者は「内定あり」(24.2%)、「内定なし」(18.8%)を合わせて43.0%。継続者の割合は文系で高く、内定保持者も含め文系学生の半数近く(計47.0%)が継続中と回答した。理系は32.2%。

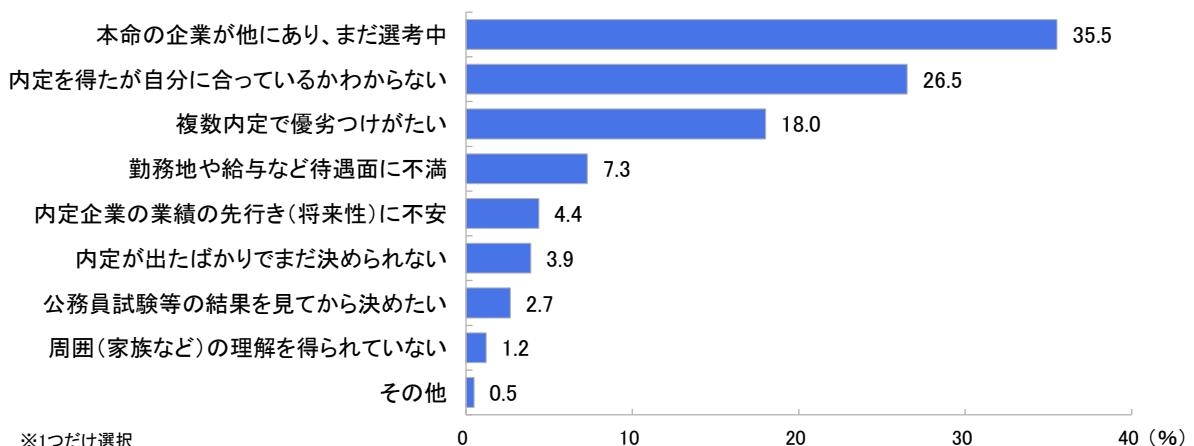
<活動状況の分布>



2. 内定保持学生の就職先未決定理由

内定を取得しても就職先を決めていない学生(モニター全体の34.0%)にその理由を尋ねた。最も多いのは「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で(35.5%)、選考解禁後に第一志望の面接が始まったという学生も一定数いるのだろう。本命企業の結果次第という状況だ。「自分に合っているかわからない」(26.5%)、「複数内定で優劣つけがたい」(18.0%)と続き、内定は得たものの決め手に欠け、承諾を迷う学生も少なくないことがわかる。

<内定保持者が就職先を決めていない理由>



3. 内定を得た企業の業界

6月1日時点で内定を得た学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査までに引き続き「情報処理・ソフトウェア」が最も多い(33.5%)。文理男女のいずれにおいても上位に挙がり、属性に関わらず多くの内定が出ていることがわかる。全体の2位は「建設・住宅・不動産」(15.5%)。3位の「銀行」(13.5%)は、文系において順位が高く、男女ともに2位。

<内定を得た業界(上位10業界)>

全体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト① 33.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.4	建設・住宅・不動産 26.0
2	建設・住宅・不動産③ 15.5	銀行 19.2	銀行 15.8	電子・電機 27.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.4
3	銀行② 13.5	建設・住宅・不動産 14.4	保険 13.4	建設・住宅・不動産 20.4	素材・化学 18.3
4	その他サービス⑧ 10.7	保険 10.7	運輸・倉庫 12.4	自動車・輸送用機器 19.7	電子・電機 16.8
5	保険⑨ 10.6	調査・コンサルタント 13.8	情報・インターネットサービス 11.8	調査・コンサルタント 12.9	その他サービス 11.5
6	調査・コンサルタント④ 10.5	商社(専門) 10.5	建設・住宅・不動産 11.1	機械・プラントエンジニアリング 9.5	医薬品・医療関連・化粧品 10.7
7	運輸・倉庫⑫ 9.7	その他サービス 12.6	その他サービス 10.5	情報・インターネットサービス 8.8	自動車・輸送用機器 9.9
8	商社(専門)⑮ 9.1	運輸・倉庫 9.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.7	水産・食品 9.2
9	電子・電機⑤ 8.7	信用金庫・労働金庫・信用組合 10.8	専門店 10.8	通信関連 8.2	情報・インターネットサービス 7.6
10	情報・インターネットサービス⑦ 8.5	リース・レンタル 6.0	商社(専門) 6.0	鉄鋼・非鉄・金属製品 9.5	機械・プラントエンジニアリング 6.9
		エンターテインメント			エネルギー

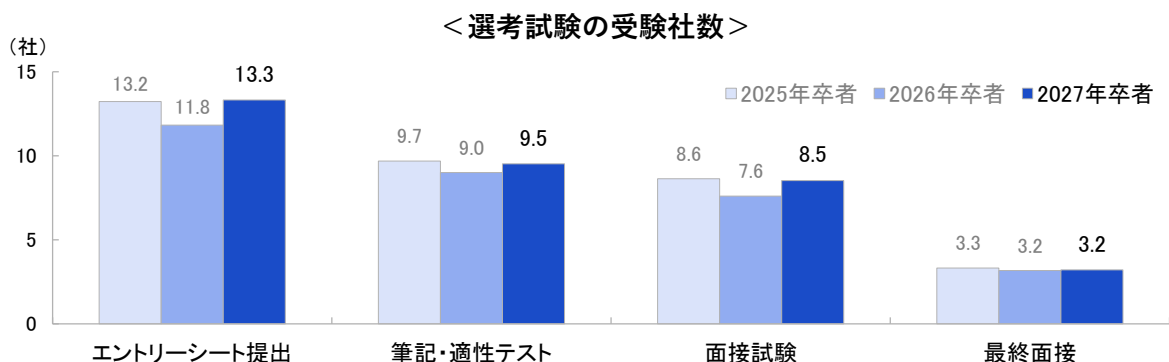
※○の中の数字は前年同期調査の順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

4. 選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を確認しよう。エントリーシート(ES)の提出社数の平均は13.3社で、前年同期(11.8社)より1.5社多い。筆記試験(9.0社→9.5社)、面接試験(7.6社→8.5社)の社数もそれぞれ前年同期を上回っている。

受験社数を文理別で比較すると、男女ともに文系の方が多く、理系は社数を絞り込む傾向が強い。



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

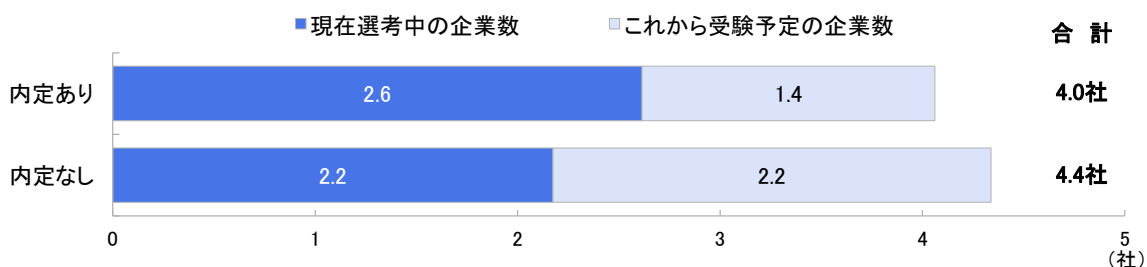
	全体	今年5月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート提出社数 / 平均	13.3	12.3	15.3	14.3	8.3	10.6
筆記・適性テスト受験社数 / 平均	9.5	8.8	10.9	9.8	6.7	8.1
面接試験受験社数 / 平均	8.5	7.2	9.5	9.1	6.1	6.6
最終面接受験社数 / 平均	3.2	2.8	3.5	3.1	3.0	2.8

5. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の43.0%）の動向を確認したい。
 現在選考中の企業数は平均2.4社、これから受験予定の企業数は1.8社。これを内定有無別に見ると、「内定あり」の学生は選考中の企業数が2.6社。「内定なし」の学生は2.2社とやや少ないが、これから受験予定の企業数については「内定なし」学生の方が多い（内定あり1.4社、内定なし2.2社）。

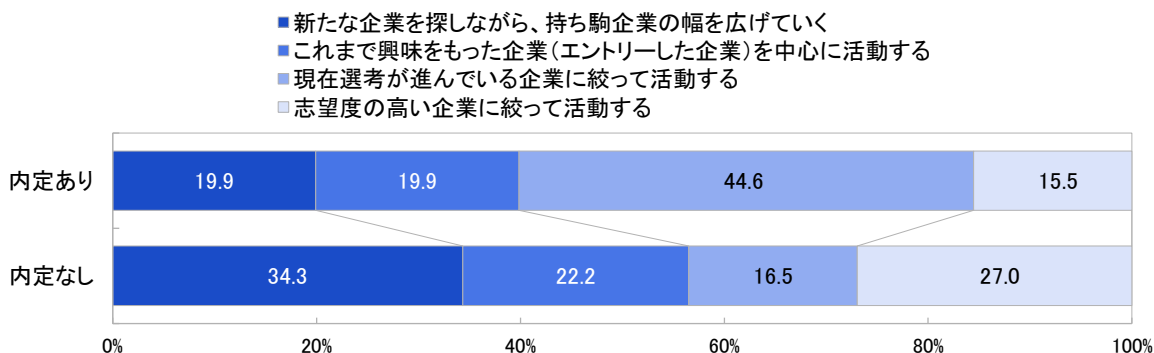
< 持ち駒企業数 >

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数 / 平均	2.4	2.0	3.0	2.4	1.3	1.3
これから受験予定の企業数 / 平均	1.8	1.8	2.2	1.8	0.9	1.0

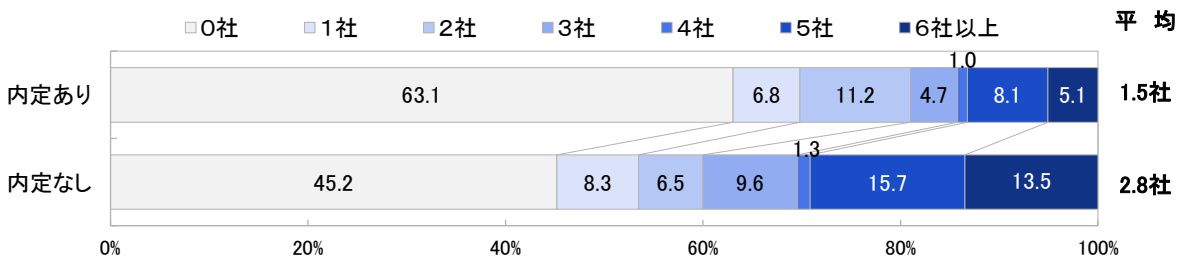


今後の活動方針についても内定の有無で違いが見られる。内定を持ちながら活動している学生は「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が最も多く（44.6%）、未内定学生は「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」が最も多い（34.3%）。その違いは今後のエントリー予定社数からも読み取れる。内定保持学生の平均1.5社に対し、未内定学生は2.8社と、積極的に受験企業を増やそうとする姿勢が表れている。

< 今後の就職活動の方針・戦略 >

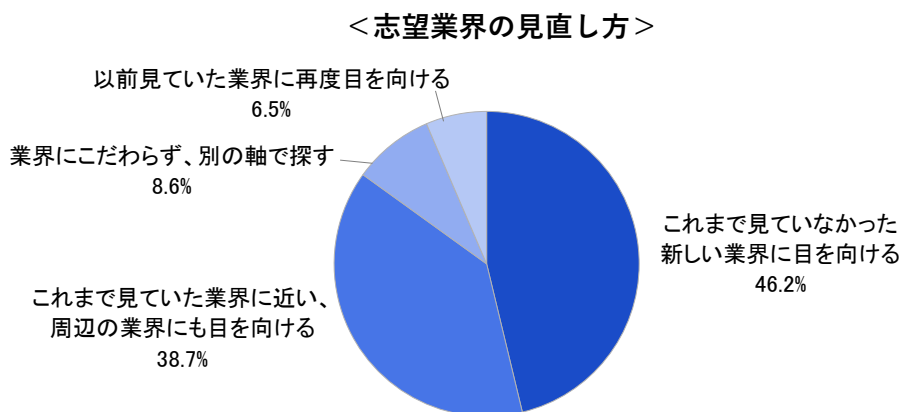
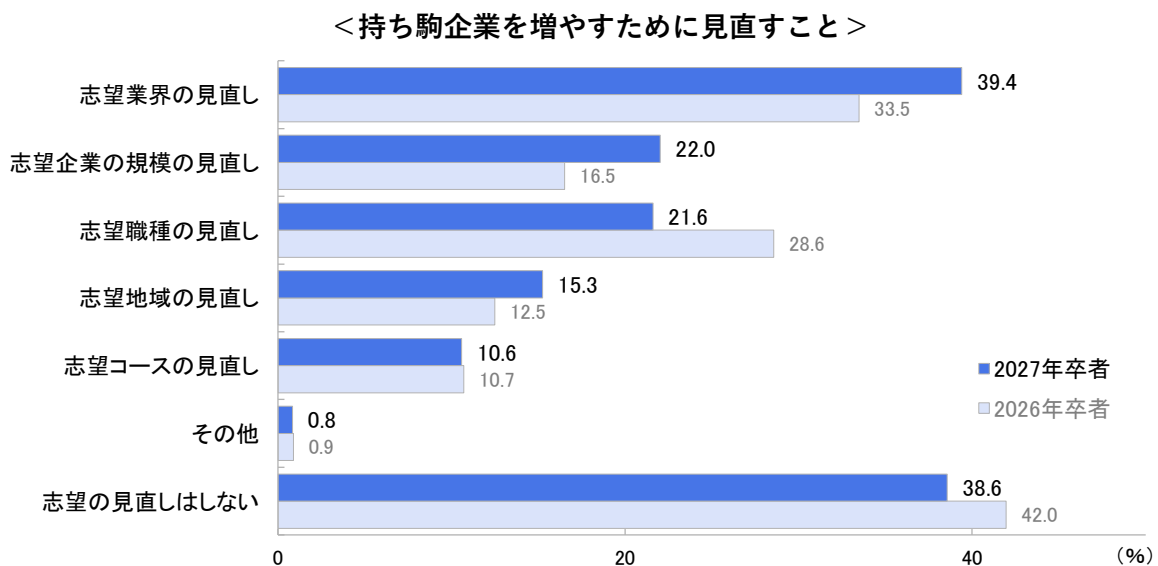


< 今後のエントリー予定社数 >



今後エントリーを予定している学生に、受験企業（持ち駒）を増やすために見直すことを尋ねたところ、「志望業界の見直し」が最も多く挙げられた（39.4%）。次点で「志望企業の規模の見直し」（22.0%）が多く、ともに前年同期調査より5ポイント以上増加している。一方で、「志望の見直しはしない」は減少。

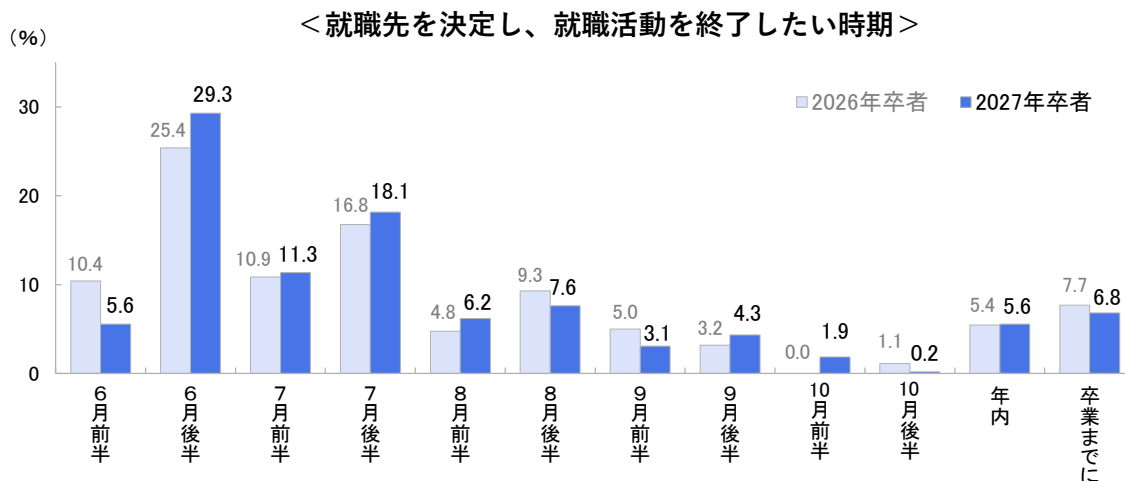
志望業界を見直すと答えた学生に、見直し方について重ねて尋ねると、半数近くが「これまで見ていなかった新しい業界に目を向ける」と回答した（46.2%）。当初の志望に固執せずに、見直す動きが見て取れる。また、「これまで見ていた業界に近い、周辺の業界にも目を向ける」は3割超（38.7%）が選んだ。



■新しい業界や周辺業界に目を向ける理由など

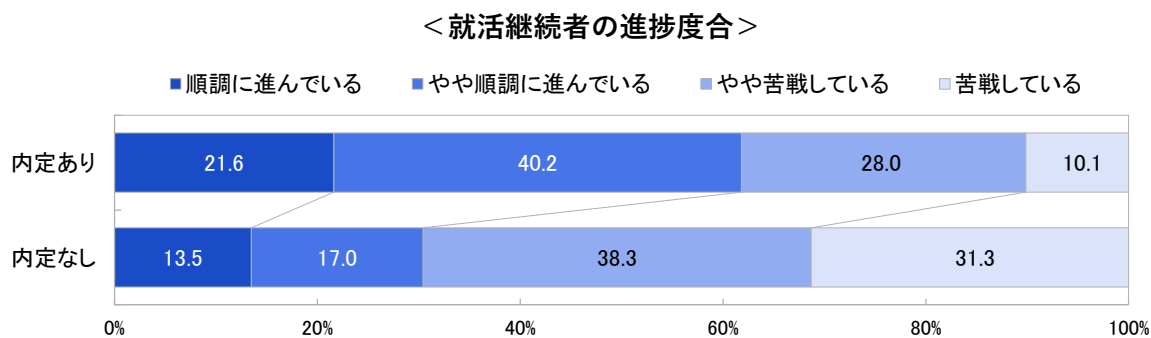
- これまで見ていた業界の人气が高く、このままでは内定を得られないと考えたため。 <文系女子>
- 予想以上に6月でも受け付けているところがあり、かつ今までの失敗から相性もわかってきたから。 <文系男子>
- 自分が向いていないと思って目を背けていた企業が、実は向いていたりするのかもしれないから。 <文系女子>
- 業界を絞り切って就活していたが、内定を得た状態で一度他の業界も見ること、より納得のいく決断ができると考えたから。 <理系女子>
- 特定の領域の仕事に興味があるため、これまで見ていた業界の周辺業界をしてみる。 <理系男子>
- なかなか上手くいかないのですが、自分の納得のいく企業に行きたいので、元の志望業界に近いところで探しています。 <文系女子>

就職先を決定し就職活動を終了したい時期は、「6月後半」が今年も最多(29.3%)。前年調査と比べ3.9ポイント増加。その分、「6月前半」が減少した(10.4%→5.6%)。ただ、7月までを合計すると64.3%に上り、今年も夏休み前に終了したい学生が大半だ。一方、「年内」「卒業までに」など、時期にこだわらずに就職活動を続ける構えの学生も一定数見られる。



就職活動の進捗度合を尋ね、内定の有無別に集計した。「順調」「やや順調」という回答は「内定あり」の学生では6割超(計61.8%)であるのに対し、「内定なし」の学生は3割にとどまる(計30.5%)。約2倍の差がついており、内定の有無による捉え方の差異が顕著。

ただ、内定を持っている学生でも3割以上が「苦戦」と回答(計38.1%)しており、志望度の高い企業は落ちてしまった、納得のいく内定が得られないといった声が寄せられた。



■「順調に進んでいる」と思う理由

- 就活を始めた頃からの想定通りで、特に苦労せずここまで来れたから。 <理系女子>
- 内定を保有しつつ、現時点で志望度が最も高い企業の最終選考まで進んでいる状況であるため。 <理系男子>
- 本命企業の最終面接まで進んでいるから。 <文系男子>
- これまでの見直しを行い、よい気持ちで再スタートを切り始めたところです。 <文系女子>

■「苦戦している」と思う理由

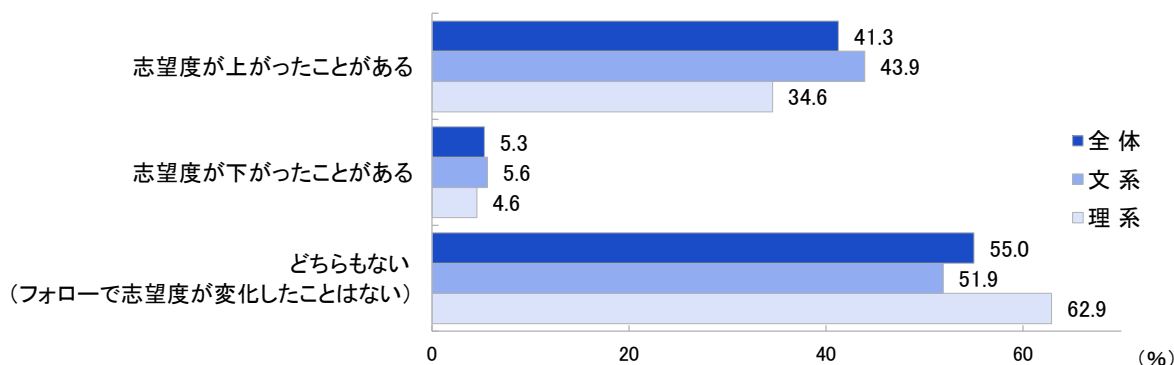
- ここ1カ月で最終面接に3度落ちた。 <文系女子>
- 研究職に絞って就活を進めているため、かなり苦しい状況だと感じる。 <理系女子>
- 手応えがあっても落とされてしまうことが多く、持ち駒が少なくなっているから。 <文系女子>
- 企業によって選考の進行スピードがまちまちで、管理が煩雑。 <文系男子>

6. 内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化

内定を得た企業から内定通知後に受けたフォローで、志望度や入社意欲に変化があったかを尋ねた。「志望度が上がったことがある」が4割を超えており（41.3%）、内定後のフォローが入社意欲を高めるのに一定の効果をもたらしていることが読み取れる。

一方で、わずかではあるが「志望度が下がったことがある」との回答もあり（5.3%）、適切な頻度や姿勢でのフォローが求められる。

＜内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化＞



■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

- 内定後のフォロー面談で、業務内容やキャリアについて具体的に説明してもらい、働く姿をより明確にイメージできた。また、社員の誠実な対応から人を大切にする社風を感じ、入社意欲が一層高まった。 <文系男子>
- 内定のお祝いで、面接前にサポートしてくれた社員の方のご飯会を用意してくれたこと。本音で向き合ってくれる姿勢に嬉しさを感じるとともに、志望度が高まった。 <文系女子>
- 内々定者限定のオンラインイベントが定期的で開催されており、仕事の解像度が高まりわくわくしている。 <理系女子>
- 内定者懇親会で、立食形式で社員の人とフランクに話した際に、改めて人柄の良さや仕事の魅力を実感した。 <文系男子>
- オフィス見学で、実際に働いている人の姿を見ることができ、企業のリアルを見せてくれて意欲が上がった。 <理系男子>
- 給与体系や休日についての詳しい説明を受けて、思っていたよりも待遇がよかったこと。 <文系女子>
- まだ内定承諾を出していない段階にもかかわらず2週間に1度面談を行い、就活の近況の相談にのってもらっている。そのため、働く上で環境が良いのではないかと思います。志望度が上がった。 <理系女子>
- 遠方から人事部の社員が来て面談をしていただいた。 <理系男子>
- 将来に関わる重要なことだからと、内定承諾期間を設けずに、待ってもらえたこと。 <文系女子>

■志望度が下がった、不快に感じた内定者フォロー

- 他の企業の結果が出るまで待つてほしいと言ったら、あからさまに嫌な態度を取られた。 <理系女子>
- 何度も内定承諾確認の電話がかかってくると鬱陶しく感じる。 <理系男子>
- 内定承諾前のイベントがすべて採用担当との電話予約だった。マイページ上の方がよかった。 <文系女子>
- 内定理由についてのフィードバックがあまり丁寧ではなかったので、内定辞退を決めた。 <文系男子>
- まだ入社が確定していない早い段階での内定者同士の交流は、少し気まずかったです。 <文系女子>
- 交通費が支給されない内定者イベントの案内。 <理系男子>
- フォローが少なく、連絡が希薄だった。意思決定の材料になるため、内定後の連絡は多い方が好ましい。 <文系男子>
- 内定後にチューターがついたが、一切連絡をもらえなかったため入社意欲が下がった。 <文系女子>